

第 1 1 4 回
沖縄地方交通審議会
船員部会 議事録

平成 3 0 年 4 月 1 9 日（木）

沖 縄 総 合 事 務 局

第 1 1 4 回 沖 縄 地 方 交 通 審 議 会 船 員 部 会

日 時 平成 3 0 年 4 月 1 9 日 (木) 1 4 時 0 0 分
場 所 沖 縄 総 合 事 務 局 5 F 聴 聞 室 兼 会 議 室

出席者：

公 益 委 員	宮 里 委 員、儀 部 委 員、春 田 委 員
労 働 者 委 員	柴 田 委 員、屋 比 久 委 員
使 用 者 委 員	山 内 委 員、大 城 委 員

沖 縄 総 合 事 務 局	大 城 課 長、平 良 調 整 官 金 城 補 佐、仲 里 係 長
---------------	--------------------------------------

議 事 次 第

○開 会

○議 事

1. 第 1 1 3 回 船 員 部 会 の 議 事 録 承 認 に つ い て
2. 管 内 の 雇 用 状 況 及 び 平 成 2 9 年 度 卒 業 者 進 路 状 況 に つ い て
3. 意 見 交 換

○閉 会

(配 付 資 料)

1. 第 1 1 3 回 船 員 部 会 の 議 事 録 (案)
2. 船 員 職 業 紹 介 実 績 等 一 覧 表 (平 成 3 0 年 3 月 分)
3. 平 成 2 9 年 度 卒 業 者 進 路 状 況 一 覧 表
4. 沖 縄 地 方 交 通 審 議 会 船 員 部 会 構 成 員 名 簿 (事 務 局 含 む)

宮里部会長

定刻でございますので、第 1 1 4 回 船員部会をはじめさせていただきます。

本日の委員の出席状況と配付資料の確認を事務局よりお願いします。

事務局（仲里係長）

本日の出席状況ですが、公益委員 3 名、労働者委員 2 名、使用者委員 2 名が出席されており、船員部会運営規則第 9 条の規定により定足数を満たし、有効に成立していることを御報告いたします。

なお、4 月の人事異動で事務局の職員に変更がありましたので、自己紹介をさせていただきます。

はじめに平良海事振興調整官から自己紹介をお願いします。

事務局（平良調整官）

あらためまして、4 月 1 日の人事異動で海事振興調整官に着任しております平良と申します。船員部会の参加は今回が初めてですが、よろしくお願いいたします。

事務局（仲里係長）

続きまして船舶船員課金城課長補佐自己紹介をお願いします。

事務局（金城補佐）

同じく 4 月 1 日付けで船舶船員課課長補佐になりました金城と申します。よろしくお願いいたします。

事務局（仲里）

最後に 4 月 1 日付けで船舶船員課労政・職業安定係長になりました仲里と申します。委員の皆様のご協力を得まして、部会の円滑な運営に努めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

また、ご報告ですが、全日本海員組合沖縄支部長として漢那太作さんが着任されております。

今後、労働者委員としての手続きを進めてまいります。

続きまして、配付資料の確認をさせていただきます。

（配付資料の確認）

宮里部会長

それでは、初めに第 1 1 3 回 船員部会の議事録の承認について、お諮りします。

お手元に配付されています議事録を御確認ください。

議案のとおり承認してよろしいでしょうか。

各委員

(「はい」)

宮里部会長

では異議なしということで、承認されたものといたします。

続きまして、議事２の「管内の雇用状況及び平成２９年度卒業生進路状況」につきまして、事務局に説明をお願いします。質問は、最後に受け付けたいと思います。

事務局（金城補佐）

平成３０年３月分の管内雇用状況等の概要について御報告いたします。

●求人状況について

新規求人数は７件でした。前月に比べ２件増加、また、前年同月に比べ２件減少となっております。

月間有効求人数は１２件でした。前月に比べ１件増加、また前年同月に比べ１４件減少となっております。

月間有効求人数１２件の内訳は、商船等１２件となっております。

月末未済求人数は７件でした。

●求職状況について

新規求職数は７名でした。前月に比べ５名増加、また、前年同月に比べ１０名減少となっております。

新規求職数７名の内訳は、商船等７名となっております。

月間有効求職数は８名でした。前月に比べ６名減少、また、前年同月に比べ１５名減少となっております。

月間有効求職数８名の内訳は、商船等７名、漁船１名となっております。

月末未済求職数は６名でした。

●成立状況について

３月は１件でした。

●求人倍率について

３月の月間有効求人倍率は、１．５０倍でした。前月に比べ０．７１ポイント増加、また、前年同月に比べ０．３７ポイント増加となっております。

●新規求職者の退職理由又は求職理由別内訳について

３月の新規求職者７名のうち離職者６名の退職理由は自己都合

4名、期間満了2名、離職以外の方1名の求職理由は、就業中に転職を希望するもの1名となっております。

新規求職者が所属していた会社所在地は、管外が4名となっております。

●失業等給付支給内訳について

基本手当受給者実人員は1名、支給延べ件数は1件で、基本手当支給金額は36,274円でした。

その他、高年齢休職者給付金の支給が1件あり、高年齢求職者給付金の支給額は121,030円でした。

総支給額は157,304円となります。

以上、管内雇用等状況の概要の説明を終わります。

宮里部会長

はい、ありがとうございました。では、ただいまの説明について、何か御質問ございますでしょうか。

山内委員

前回の部会で報告ありました漁船の通信部の方の休職についてですが、この方は成立しなかったのでしょうか。

事務局（仲里係長）

成立していない状況です。

山内委員

成立していないのですね。前回の部会で病気が回復したので、また働きたいとの説明があったのですが。

事務局（仲里係長）

求職票の提出はありましたが、成立していない状況です。前任からも成立についての引き継ぎを受けておりません。

山内委員

この方は19トンのマグロ船ではなく、比較的大きな遠洋のマグロ船に乗りたいとの意向があるのですか。

事務局（仲里係長）

この方が以前勤めていた船会社は県外の事業者で、実際に乗船していた船舶が小型漁船ではなく大型漁船であることから、比較的大きな漁船を就職先として希望しているのではないかと思います。

山内委員

早く乗れるといいですね。どうもありがとうございました。

宮里部会長

引き続き平成２９年度卒業生進路状況について事務局から説明をお願いします。

事務局（金城補佐）

引き続きまして、平成２９年度沖縄水産高校と宮古総合実業高校の卒業生進路状況について、ご説明いたします。

本一覧表は、各校の進路指導関係担当者からの調査報告に基づき作成しております。

はじめに、沖縄水産高校についてご説明いたします。

沖縄水産高校（糸満市）には、本科と専攻科があります。本科は３年コースであり、専攻科は高校を卒業した方が進学し、２年又は２年半コースとなっております。表に記載している入学者数は、平成３０年３月卒業生の入学時の入学者数となっております。

表の上段の専攻科につきましては、漁業科７名、機関科９名、無線通信科１５名が入学しており、卒業生は漁業科７名（内９月修了者１名含む）、機関科９名（内９月修了者１名含む）、無線通信科１２名となっております。

表の中段の本科につきましては、本科である海洋技術科・総合学科には、６４名入学しており、卒業生は５７名でございます。

続きまして、海上関係への就職先についてご説明いたします。専攻科の海上関係への就職先につきましては、県内９名、県外９名となっております。

まず、県内の内訳についてご説明いたします。航海士につきましては、０名。機関士につきましては、沖縄海運産業株式会社１名、共和マリン・サービス株式会社１名、久米商船株式会社１名、東亜運輸株式会社１名、南西海運株式会社３名、琉球海運株式会社１名となっております。

次に、県外の内訳についてご説明いたします。航海士につきましては、共和水産株式会社１名、中国総業株式会社１名、鶴丸海運株式会社１名、南和海事株式会社１名、二丈海運株式会社１名、ニッスイマリン工業株式会社１名、航海士・通信士として海上保安庁に３名、通信士につきましては、大洋エーアンドエフ株式会社１名、機関士につきましては、県外での就職は０名となっております。

本科につきましては県内３名、県外１６名となっております。

県内は、甲板員として琉球海運株式会社１名、伊是名村（フェリー）１名、久米商船株式会社１名となっております。

県外につきましては、甲板員として、ＮＳユナイテッド内航マリン株式会社１名、エスオーシーマリン株式会社１名、共同船舶株式会社１名、津田海運株式会社１名、山田水産株式会社１名となっております。機関員につきましては、霧島物流株式会社２名、丸三海運株式会社１名、有限会社正豊海運２名となっております。その他

甲板員・機関員としまして藤井綱海運株式会社 2 名、自衛官候補生として海上自衛隊に 3 名、接客スタッフとして株式会社シティラインサービス 1 名となっております。

海上関係進学者につきましては、沖縄水産高校本科から専攻科漁業科へ 6 名、機関科 4 名、無線通信科 3 名となっております。

沖縄水産高校専攻科からは、海上関係の進学者はおりませんでした。

つづきまして、宮古総合実業高校（宮古島市）についてご説明いたします。

海洋科学科には 25 名が入学し、2 年時に各自が選択した類型に分かれ、海洋技術類型 7 名、海洋機関類型 8 名、沿岸技術類型 7 名、合計 22 名が卒業しております。

海上関係就職者は県外に 12 名となっております。

内訳につきましては、2 ページ下段をご覧ください。

県外は、甲板員として、株式会社ワタナベライン 2 名、株式会社小島組 1 名、住若海運株式会社 3 名、山田水産株式会社 1 名、

機関員として、株式会社ワタナベライン 2 名、独立行政法人海技教育機構 1 名、住若海運株式会社 2 名となっております。

海上関係進学者につきましては、宮古総合実業高校から、沖縄水産専攻科漁業科へ 2 名、機関科 3 名となっております。

以上でございます。

宮里 部会長

はい、ありがとうございました。では、ただいまの説明について、何か御質問はございますでしょうか。

柴田 委員

平成 29 年度卒業者進路状況一覧表についてですが、毎年同様の資料を作成し、船員部会で公表しているかと思うのですが、過去 5 年から 10 年の資料と比較して就職先等の傾向と今後の見通し等があれば、見解をお聞かせ願いたいのですが。

また、宮古総合実業高校の就職先で独立行政法人海技教育機構との説明がありましたが、これはどのような形で就職したのかお聞かせ願えますか。

事務局（仲里係長）

事務局からお答えします。1 点目の質問についてですが、これまで就職先等の傾向について統計的なデータ取りを行っているわけではありませんので、現段階ではお答えすることはできません。過去の資料を確認してどのような傾向があるか分析できれば次回の部会でお答えしたいと思います。

2 点目の独立行政法人海技教育機構への就職の件ですが、具体的にどのような船舶にどのような形で就職したのかは、学校へ問い合わせないとわかりませんので、この点も含めて次回の部会で回答し

たいと思います。

宮里部会長

はい、次回よろしく願いいたします。

宮里部会長

私からも説明資料について確認したい点があるのですが、無線通信科の学生については昨年の資料でも就職先未定の数が他の科と比較して多いように記憶しているのですが。

無線通信科はあまり就職先が少ない等の要因があるのですか。

山内委員

時代の流れで今は無線設備から電話を利用している時代です。漁船については必ず無線設備を設置しないといけないことになっているのですが。

宮里部会長

そういことですか。高性能の携帯とかを利用しているのですか。

山内委員

携帯ではなくインマルサット衛星を利用した衛星電話を利用しています。

事務局（仲里係長）

船員の方は無線資格をお持ちになられている方は多いと思います。ただ、通信士を強制で乗せなければならない船舶は内航船には少ないと思うのですが。

屋比久委員

内航船で通信士を乗船させる船はないかと思います。

事務局（仲里係長）

基本的に甲板部の方が無線資格をお持ちですので。

山内委員

甲板部の職員が無線資格を取り兼務という形で無線を扱っている状況です。

宮里部会長

これまでの話からすると、無線通信科自体が船舶の通信士を養成する役目を終えているのではないかと思うのですが。

山内委員

ほぼ役目を終えているのではないかと思います。

柴田委員

ただ漁船の場合は、通信士が船に必要な職域として存在していて、沖縄水産の専攻科に無線通信科が置かれているのも、漁船の通信士を育成するためのものだと思います。ただ、民間の内航船ですが、通信士を乗船させる船舶は少ない状況にあります。

また、各都道府県の大半に水産高校があり、実習船があるのですが、若い通信士が少なく、かなり高齢化している状況です。

母校の実習船の通信士として就職する選択肢はあるかと思いますが、無線通信科を卒業して実習船に乗るという生徒は少ないです。

その要因として考えられるのが、無線通信科を卒業する生徒というのは、陸上の総合無線の資格を取得するため、陸上のJAXAとか航空局とか、船とは違った無線関係の職種に就職する道に進みつつあると思います。そのため、今の若い子たちの就職の希望先と無線通信科の本来の意義から考えるとミスマッチが起きている状況にあるかと思っています。

春田委員

航空管制官になる方もいるのですね。

柴田委員

そうです。鹿児島県の水産高校にも無線通信科はあるのですが、そちらの生徒はかなり優秀で、空港の管制とか関門マーチスという海峡の海上交通センターで外国船とやりとりをする、そのような職種に就職する方が非常に多いです。陸上の無線資格を取得すると、就職先として船舶を選択せず、ワンランクどころかツーランク上の上級職を目指している傾向があります。

春田委員

卒業したら船舶の仕事ではなく、別の進路として陸上の職種に就職される方が多いのですね。

柴田委員

在学中に陸上の無線資格を取得した時に、陸上の就職先として先ほどお話しした道があるため、船舶の通信士として就職を希望する生徒は少ないと思います。

山内委員

昔は無線通信科を出た方の受け入れ先として多くの船があり、それなりの職業として認知され、また位置づけられていましたけれど、時代の流れとともに無線機に変わる衛星電話が普及してきたため、あまり無線設備が活用されなくなってきました。

また、マグロ船では250ワットまで使用できる第4級海上無線通信士という資格が必要であり、この資格は無線通信科を卒業しなくても取得できます。ただし、第4級海上無線通信士の資格を取得するために第2級海上特殊無線技士の資格を取得し、5年以上保持して第4級

海上無線通信士の試験を受験することができるようになるのです。

春田委員

専門職ですね。

山内委員

第4級海上無線通信士の資格を取得するために必要な5年以上の履歴というのは、非常に長い時間です。漁船は船員の入れ換えが激しいので、5年経つ間に人が変わってしまうため、無線資格を取得する方が少ないのが現状です。電波法なので総務省の管轄になるかと思うのですが、この5年以上の履歴について規制緩和をしていただければと思います。

柴田委員

おっしゃるとおりです。陸上の総合無線の資格と海上に必要な資格というのは余りにも差があります。海上で必要な資格を取得するために5年の乗船履歴が必要になったり、陸上の総合無線通信士の2級や1級を取得すると船に乗ることもできたりするのですが、先ほどお話ししたとおり、管制官が持っている資格とほぼ同一であるため、上級の無線資格を取得すると船に乗ることは、まずありません。このような問題は、今の時代の流れと無線資格の要件が間違いなくミスマッチしていると思います。

春田委員

相当な費用をかけて教育しているのですね。

柴田委員

そうですね。本来であれば海上・陸上の無線通信科がそれぞれあってそれぞれの資格を取得できるような養成課程にすればいいのですが、沖縄水産の場合両方を兼ね備えた養成機関になっていますので、漁船に就職すると言われるれば就職する方は少ないかと。沖縄水産高校の無線通信科は県外にある電波高専と同じような考え方です。

春田委員

わかりました。もったいないですね。

宮里部会長

よくわかりました。昨年も無線通信科卒業生の就職先の未定が多かったもので。

柴田委員

漁船はモールスに関する設備が問題になるのですよ。その設備を扱うのに必要とするのが陸上総合無線通信の資格と海上の無線資格で同一になるところです。そのためモールスに関する設備があるか

ら、漁船や実習船としても無線資格が必要となるため、通信士を乗船させなければならない。資格の種類や分類で乗船履歴が必要であったりなかったりするのです。間違いなく時代にミスマッチしていると思います。

屋比久委員

今時モールス信号使うなんてことはないのですが。

山内委員

無線電信でも使用していませんからね。

無線通信科という高度な分野で学んで就職する手法と、そこまで必要としない漁船の後継者育成問題を分けて、ある意味最適化して考えなければならないと思います。この部会ではそのような問題について提案できるのですか。

宮里部会長

それは難しいかと。立法の問題であるため関係する法律の改正が必要となると思います。労使双方から、無線資格取得要件に関する規制緩和や高校教育の見直しについての意見があったことについて議事録に残しておくべきかと。

山内委員

船員部会で、時代の変化にあわせた制度の見直しを提案できればと思います。

柴田委員

通信士の乗船についてですが、沖縄水産の実習船は、現状では問題ないですが、他県の実習船では通信士が不足している状況があります。専攻科に紹介を依頼しても乗船してもらえないのが現状です。

春田委員

沖縄水産の方は乗らないのですか。

柴田委員

乗らないですよ。先ほどお話ししたように陸上の無線資格を取得するわけですから、実習船やマグロ船に乗るかと言ったらそれはないです。よっぽど船が好きの子がいれば別ですけど、本人たちは空港で働きたいとか、JAXAに入職しようとか、それぐらいの意気込みでいるわけですから。

春田委員

一番我々に関連するところですね。

柴田委員

そうですね。ハードルといいますか、自分の希望の就職先を船の

通信士にすることはあり得ないかと思います。

柴田委員

本来沖縄水産の専攻科というのは、漁船や実習船のための船員を養成するための学校であるというのが本来の形だと思います。

しかし、もうそれが時代の背景ではなくて、就職先をどこにするかと考えたときに、陸上の方に就職順位を上げていった結果、最終的な進路としてこれまでお話しした形に為らざるをえないのかなと、学校の先生もそう思っているのではないかと。

春田委員

これは大きなテーマですので、是非部会長として調査報告書という形で作成して頂ければと思います。

事務局（大城課長）

そこまでは難しいですけど、このような話が出たことは議事録に残すという形はできるかと思います。

宮里部会長

今の議論についてですが、意見や質問という形で議事録に残して頂きたいと思います。

ほかに何か御意見はございますか。

では、ないようでしたら事務局から連絡をお願いします。

事務局（仲里係長）

事前にメールでも照会させていただきましたが、5月の船員部会は、当初5月17日木曜日に5階聴聞室兼会議室で14時より予定しておりましたが、定足数に満たない可能性が高いため、5月23日（水）5階海技試験室に変更し開催いたします。

後日、改めて案内の文書を送付いたします。出席できない場合は、事務局まで御連絡下さい。

また今回の議事録は作成次第メールで照会させていただきますので、御確認よろしくをお願いします。

宮里部会長

はい、ありがとうございました。

それでは、本日の部会はこれで終了したいと思います。

皆さん、御苦労様でした。